

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢川名計画	階数	地上7F
建設地	神奈川県藤沢市川名181番17、27	構造	RC造
用途地域	準工業地域、第一種住居地域、準防	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,703時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年3月15日
敷地面積	1,173 m ²	作成者	㈱アール建築計画
建築面積	501 m ²	確認日	2021年3月15日
延床面積	2,584 m ²	確認者	㈱アール建築計画



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

★ ★ ★ ★ ★ A: ★ ★ ★ ★ B: ★ ★ ★ B+: ★ ★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 62%

③上記+②以外の 62%

④上記+ 62%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
JR藤沢駅から徒歩10分の準工業地域で準防火地域に、住宅単一用途の共同住宅を街並みに調和を図りつつ計画をした。		特に無し。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Dr-52の戸境RC壁厚 t 180を採用している。	各住戸に1Gbitクラスのブロードバンド利用可能な環境が整備されている。 日本住宅性能表示3-1劣化等級は3相当とした。	特に無し。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特に無し。	特に無し。	LCCO ₂ 排出率62%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される